NX7700x/A5010E-2 v2
ご使用時の注意事項

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠に恐れ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

１） はじめに
２） システムROMの機能に関する注意事項
３） iLO5 の機能に関する注意事項
４） OSに関する注意事項
５） 全般の機能に関わる注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

「本製品に関する詳細は、下記サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。
ご購入頂いた型番で、製品マニュアルをご検索ください。

https://jpn.nec.com/nx7700x/

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス(MG)に関しては、
ESMPRO 日本語ポータルサイト<https://jpn.nec.com/esmsm/>
NEC サポートポータル<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?isIntra=0&id=9010102124>
の最新の情報およびバージョンをご確認の上，ご利用ください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下 Web サイトに掲載されています。
本体装置購入時に合わせて購入されていない場合はダウンロードして適用してください。

https://jpn.nec.com/nx7700x/

（［技術サポート情報・ダウンロード］ ― ［ドライバー、ユーティリティ関連の物件］のページの StarterPack の項を参照）

なお、使用する StarterPack については、別途 Web 公開している「OS と Starter Pack の対応表」を参照ください。

https://jpn.nec.com/nx7700x/support/index.html?

(マニュアルの項 にある[本体(A5010E-2,A5010E-2 v2)]を参照ください。

● VMware ESXiのドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールは、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。Web に掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

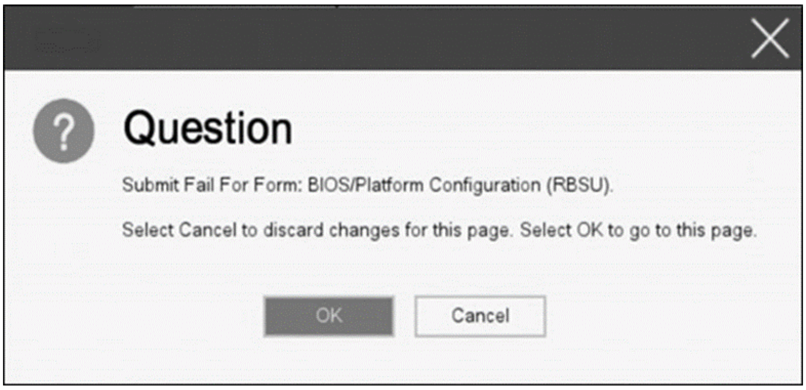
1. Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver
   https://jpn.nec.com/nx7700x/
   （［技術サポート情報・ダウンロード］ ― ［ドライバー、ユーティリティ関連の物件］のページの ユーティリティの項を参照）

2. WBEM プロバイダおよび CLI ツール
   https://jpn.nec.com/nx7700x/
   （［技術サポート情報・ダウンロード］ ― ［ドライバー、ユーティリティ関連の物件］のページの ユーティリティの項を参照）

3. VMware ESXi デバイスドライバ
   https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866
   （「エンタープライズサーバ(NX7700x シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバ一覧」を選択）

● **Submit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップ表示についての注意事項**

システムユーティリティにおいて設定の変更中に、**次のSubmit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップが表示された場合は、「キャンセル」を選択して変更を破棄してください。**
さらに、サーバーの再起動を行ってシステムユーティリティに入りなおしてから設定の変更を再度行ってください。もし「OK」を押してそのまま設定変更を進めると、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。



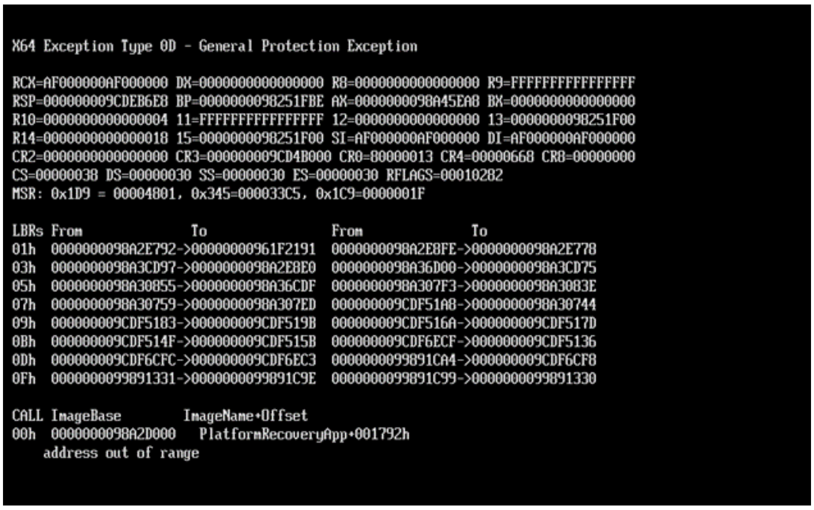
英語表示の場合

日本語表示の場合

● **赤文字画面(RSOD：Red Screen of Death)が表示された場合の対処について**

装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合や、接続デバイスへのアクセスタイミングにより、OS起動前に稀に赤文字画面(RSOD)が表示され、本製品の操作が出来なくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があり電源OFF/ONによって回復します。

赤文字画面(RSOD)が表示された場合、装置の電源OFF/ONをお願いします。
問題が解決しないときは、保守サービス会社にお問い合わせください。



赤文字画面の例

- **「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について**

  「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止した場合、システムメンテナンススイッチの SW6 によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。
  復旧作業にあたりまして保守サービス会社にお問い合わせください。

- **内蔵DVD-ROM(NE3351-137)表示について**

  システム ROM バージョンが v2.32 (03/09/2020)未満の場合、Embedded SATA Configuration 設定(*1)を [Smart Array SW RAID Support] 設定時、運用環境により Disk Utilities メニュー(*2)に内蔵 DVD ドライブ情報が２つ表示されます。
  どちらのドライブを選択した場合でも同じ内蔵 DVD ドライブの情報が参照できます。
  (*1)「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Storage Options > SATA Controller Options > Embedded SATA Configuration」
  (*2)「System Configuration > HPE Smart Array S100i SR Gen10 > Disk Utilities」

- **工場出荷時の設定について**

  以下の項目については、工場出荷時に以下のように設定しています。

  1. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Workload Profileを「Custom」に設定。
  2. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Core C-Stateを「No C-states」に設定。
  3. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Package C-Stateを「No Package States」に設定。

- **システムユーティリティおよびワンタイムブートメニューの表示について**

  1. BMC Configuration Utility 配下のメニューの変更権限については、BMC Configuration Utility > Setting Option > Require user login and configuration privilege for BMC Configuration を有効にすることで保護してください。
     BIOS/Platform configuration (RBSU) > Server Security > Set Admin Password の設定では保護されません。
  2. System Information > Processor Information で表示される L2 Cache、L3 Cache の Maximum Size、Installed Size は 1MB を 1048576 バイトに換算した数値で表示されます。

- **シリアルコンソールに POST デバッグ情報が出力される件について**

  システム ROM v2.32(03/09/2020)において、POST 実行時、まれに POST デバッグ情報がシリアルポートに出力され、POST 実行時間がおおよそ 2 分長くなることがあります。
  システム ROM v2.34 (04/09/2020)以降では、この問題が修正されています。

- **フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)の仕様変更について**

  本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)の仕様に変更があります。下記、変更点を記載します。

  - システムROMのバージョンがv2.00(02/02/2019)以降、CPUあたりDIMM 8枚、もしくはDIMM 12枚以外の構成であっても、フォールトトレラントメモリ機能（ADDDC）が使用できる構成であれば、本機は自動的に設定が変更し、同機能の使用を始めます。
  - システムROMのバージョンがv2.10(05/21/2019)以降、各チャネルあたりのRANK数の合計が2以上になるようにメモリを搭載しなくても、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)は利用できます。
  - システムROMのバージョンがv2.10(05/21/2019)以降、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)が使用可能なDIMMとして、NE3302-709が加わります。

● Extended Memory Testオプションの設定値について

システム ROM のバージョンが v2.36 (07/16/2020) の場合、Extended Memory Test オプションは、自動的に Disabled となります。

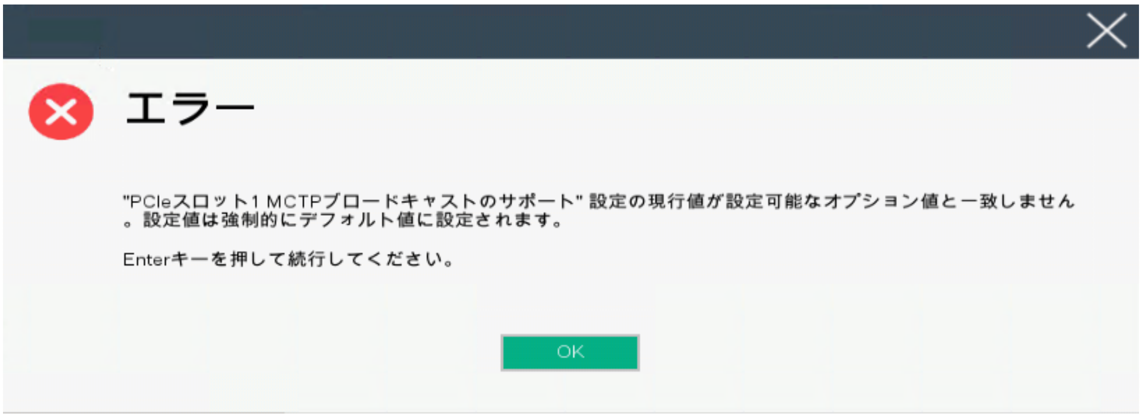
System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Extended Memory Test

PCIe Slot X MCTP Broadcast Supportメニューについて　　(X はPCIe Slot番号)

システム ROM バージョンが v2.10 (05/21/2019) 以降の装置において、初めて PCIe MCTP Options メニュー(*1) を選択した場合、装置のデフォルト設定を強制的に設定する旨のポップアップ(*2) が、設定可能な PCIe Slot 数分表示されます。
設定を一度保存すると、次回以降ポップアップ表示はされません。

*1 : System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe MCTP Options

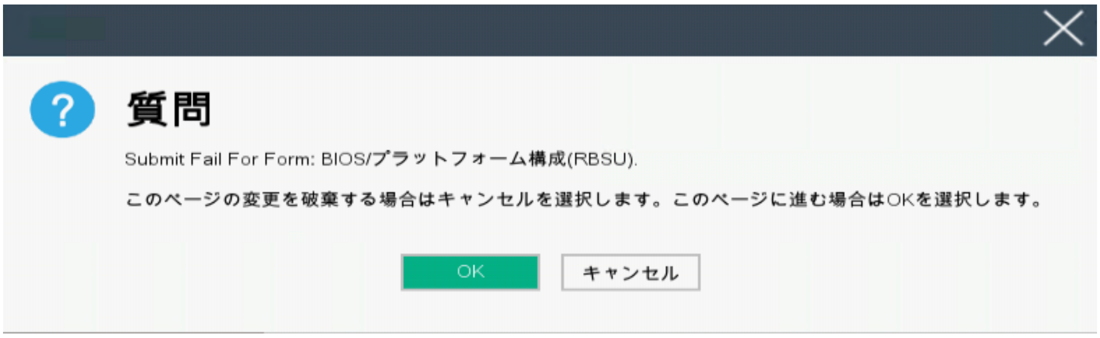
*2 :



また、下記システム ROM バージョンの場合、設定保存時にポップアップ(*3) が表示され設定を保存できません。
この際、MCTP Broadcast は常に有効で動作します。

・v2.22 (11/13/2019)
・v2.30 (02/11/2020)
・v2.32 (03/09/2020)

*3 :



3) iLO 5の機能に関する注意事項

● **iLOの再起動を行う場合の注意事項**

サーバ起動からOSの起動完了までの間(POST(Power On Self Test)実行中も含みます)は、iLOの再起動を行わないでください。
また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。
該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。
例えばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に動作しない場合や、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。また、POST(Power On Self Test)実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェース：[情報] - [概要]ページにおけるUUID、UUID(論理)が不正な表示になる場合があります。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞
- iLO Webインターフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「**システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項**」を参照して操作してください。

● **iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項**

iLO 5ファームウェア1.40以降でiLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy]の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。
『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、iLOに対して永続的な変更が行われるため、『Permanently disallow downgrades』に設定後は、iLOの各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。
なお、本設定はSet to factory defaultsオプションからiLOを出荷時のデフォルト設定に設定を行った場合も、リセットされず『Permanently disallow downgrades』を維持します。

● **iLOのセキュリティ機能の注意事項**

[Information] - [Security Dashboard]及び iLO Web インターフェース画面の右上部に リスクが常に表示されます。
RBSU の設定や iLO の設定の内容次第で、iLO セキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。
推奨値などの詳細については、iLO5 ユーザーズガイドを参照してください。
但し、『Require Host Authentication』設定については、**「iLO Web インターフェースから [ホスト認証が必要]設定を有効に設定した場合の注意事項」**に注意事項がありますので、ご確認ください。

iLO の負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティーステータス”が『リスク』であっても、iLO Web インターフェース画面の右上部の”iLO セキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。この場合、[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティーステータス”が最新のセキュリティ状態を示します。

● **iLO Webインターフェースの Virtual NIC設定の注意事項**

[Security] - [iLO]の “Virtual NIC” のデフォルト値は、iLO5ファームウェアのバージョンにより異なります。
BMC構成ユーティリティにて “工場出荷時のデフォルトにセット” を実施した場合は、以下をご確認ください。

(1) iLO 5ファームウェア：2.10以上 2.18以下をご使用の場合、デフォルト値は『有効(Enabled)』です。
しかし、本機はVirtual NIC機能をサポートしておりませんので、[Security] - [iLO]の”Virtual NIC”の設定を『無効(Disabled)』に変更してください。

(2) iLO 5ファームウェア：1.40以上 1.47以下、もしくは、2.31以上をご使用の場合、デフォルト値は『無効(Disabled)』です。

● システムユーティリティより、iLO Webインターフェースから［ホスト認証が必要］設定を有効に設定した場合の注意事項

「セキュリティ ＞ アクセス設定 ＞ iLO」 にある［ホスト認証が必要］を『有効』に設定。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。
・アラートビューアに、“Remote Insight/ Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出“のメッセージが多数表示されます。
・Starter Pack(Standard Program Package)を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。
・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
・RAID通報サービス
・iLOが収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、及びイベントログ採取機能

● iLO WebインターフェースのUUIDの不正値表示について

POST(Power On Self Test)実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェースの[Information]-[Overview]ページのUUID、UUID(論理)の値が稀に不正な表示となることがあります。
不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● iLOの時刻についての注意事項

iLO5ファームウェア1.45以下でiLOのSNTPの設定が無効の場合、iLOの再起動を行うとiLOの時刻がずれてしまう場合があります。
iLO Webインターフェースにて SNTPの設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。
iLOのSNTPの設定方法については、iLO5ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO WebインターフェースのUUID不正値表示について

POST (Power On Self Test)実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェースの[Information] - [Overview]ページのUUID、UUID(論理)の値が稀に不正な表示となることがあります。
不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● iLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ファイバーチャネルコントローラーが実装されているシステムで、iLO Webインターフェースの言語に日本語が選択されている場合、[システム情報] - [ネットワーク]で表示されるファイバーチャネルコントローラーの"ポートのステータス"が『下へ』と表示されます。
これはファイバーチャネルコントローラーの接続が『ダウン』の状態であることを示しますので、読み替えてご利用ください。

● iLO WebインターフェースのNetwork情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成し、iLO 5ファームウェア：2.31以上をご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adpters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネッワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● iLO WebインターフェースのDevice Inventory情報の表示について

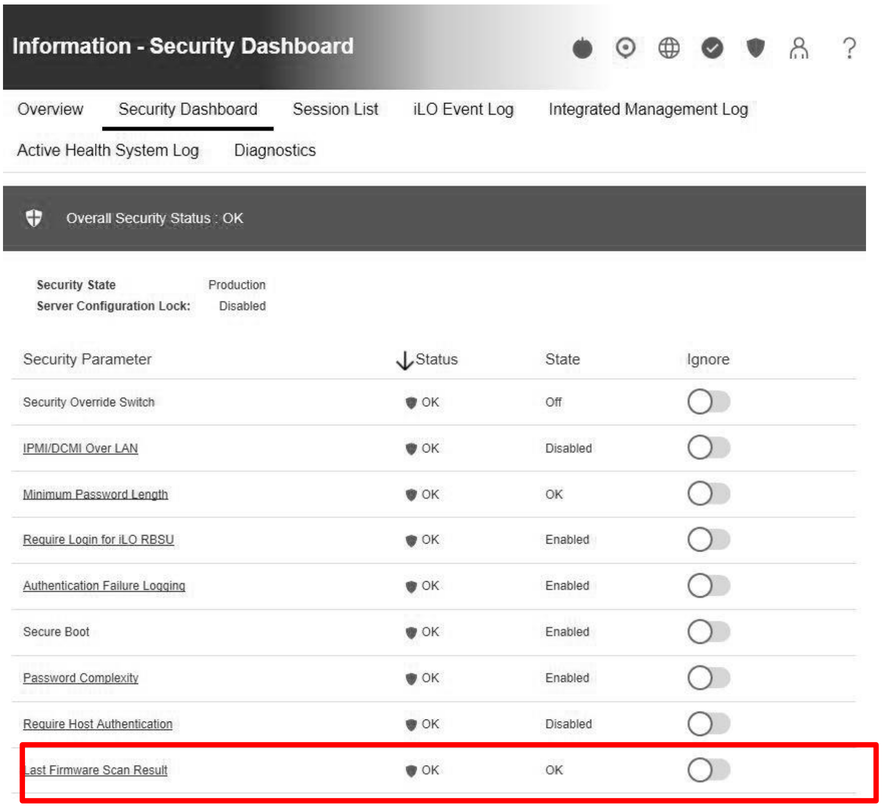
<SASエキスパンダ(NE3316-51)構成時>
iLO 5ファームウェア：2.31以上をご使用の場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Device Inventory]において、SASエキスパンダカードの表示情報が以下のように表示される場合がありますが、サーバの運用およびSASエキスパンダカードの動作に影響はありません。

- Firmware Version　：　N/A
- Status　：　Disabled

● **iLO Webインターフェースのセキュリティダッシュボードの注意事項**

iLO5 ファームウェア 1.43 以上、2.10 未満をご使用の場合、[Information] - [Security Dashboard]に[Last Firmware Scan Result]が表示されますが、本ハイパーリンクをクリックしないでください。
誤ってクリックした場合、Web ページ内のメニュー間移動が出来なくなります。その場合、ブラウザーのリロードボタンをクリックするか、もしくは一旦 iLO Web インターフェースのログアウトを実行して再度ログインしなおしてください。

日本語表示の場合



英語語表示の場合

4) OS に関する注意事項

● **EXPRESSBUILDERでのWindows「手動」インストールについて**

EXPRESSBUILDER から Windows をインストールするとき、「手動」オプションを選択した場合であっても、インストール先ディスクのパーティションがすべてクリアされます。再インストール時、ユーザーデータが存在する場合は注意してください。

● **Windows Server OS ご使用時の注意事項**

サポート対象の Windows Server OS で USB デバイスをお使いの場合、以下のシステムイベントログが採取されることがあります。
これについては、システム動作上問題ありません。

＜イベントログ＞
ID　　：1
ソース ：VDS Basic Provider
レベル ：エラー
説明　：予期しないエラーが発生しました。エラーコード:32@01000004

● **ESMPRO/ServerManager(Windows版)およびエクスプレス通報サービス(MG)に関する注意事項**

本製品の iLO ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager(Windows 版)およびエクスプレス通報サービス(MG)のバージョンの組み合わせによっては ESMPRO/ServerManager(Windows 版)および iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。以下をご参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。
各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

◆ESMPRO/ServerManager(Windows 版) に関する発生現象

iLO ファームウェア	**ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)**	**発生現象**
Version 1.43 以上	Version 6.25 未満	・ 構成タブ - サーバ状態 "SNMP 通報設定" が "取得に失敗しました" と表示される ・ リモート制御タブ - iLO 情報 - IML の表示、IML の保存 IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができない ・ アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに "不明タイプ" のアラートとして表示される
	バージョン 6.47 未満	・ アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは "不明タイプ" のアラートとして表示される

◆ESMPRO/ServerManager(Windows 版)のアップデート方法

(1) 以下より最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。
https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524

(2) 「ESMPRO/ServerManager Ver.6 インストレーションガイド(Windows 編)」の「2 章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager をアップデートします。

◆iLO管理機能向けの受信情報設定ファイル に関する発生現象
※エクスプレス通報サービス(MG)をご利用されている方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
バージョン 1.43以上	ilo_jp.mtb バージョン 1.4.0未満 iml_jp.mtb バージョン 1.5.0未満 ※iLO管理機能向けの受信情報設定ファイルは2種類あります。	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。 ※受信情報設定ファイルをアップデートした場合であっても、ESMPRO/ServerManagerがアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。

◆iLO管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法
(1) 以下より最新版の受信情報設定ファイル(ilo_jp.mtb、iml_jp.mtb)をダウンロードします。
https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096
ilo_jp.mtb、iml_jp.mtbはMGMTB.zipに包含しています。

(2) 「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド(Windows編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。

(3) (1)でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。
「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド」は以下のURLからダウンロードしてください。
https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124

◆iLOファームウェアのバージョン確認方法
・Server Health Summaryで確認する方法
サーバ本体のUIDボタンを押下して、サーバに接続されたコンソールに表示されるiLO Firmwareのバージョンを確認します(Server Health Summaryの詳細はiLO 5ユーザーズガイド参照)。

・ネットワーク経由で確認する方法
iLOにネットワーク接続可能な場合、ブラウザからiLOにログインして、
メニュー「ファームウェア&OSソフトウェア」からiLOのバージョンを確認します。

◆ESMPRO/ServerManager(Windows版)のバージョン確認方法
(1) ESMPRO/ServerManagerのWEBにログインします。
(2) 画面右上の「ESMPRO/ServerManagerについて」のリンクを選択します。
(3) 表示されるESMPRO/ServerManagerのバージョン情報を確認します。

◆iLO管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法
「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド(Windows編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」が「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

● Linux OSを使用する場合の注意事項

OSが自動的に認識するLOMやオプションNICのデバイス名を使用してください。独自udevルールを追加する際、PCIアドレスを基準にNICデバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。
また、PCIアドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCIアドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCIスロットへのカード増設/抜去、および、CPU構成変更を行わないでください。PCIバスのアドレス情報が変化し、PCI接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● **VMware ESXiを使用する場合の注意事項**

ESXi起動時のVMware vSphere の監視 > ハードウェア > システムセンサー > センサーの表示について。

①下記のようなHeartbeat Lost センサの表示が『警告(黄色)』となる場合があります。

[Device] I/O Module (n) LOM_Link_P(n) : Heartbeat Lost-Assert
[Device] I/O Module (n) NIC_Link_P(n) : Heartbeat Lost-Assert
※n : LAN ポート番号の P1～4 を示します。

< iLO5 ファームウェア : 1.43 以降が適用された環境 >
ESXi 起動完了後、Heartbeat Lost センサの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『警告(黄色)』となる場合、数分お待ちいただくと『警告(黄色)』から『標準(緑)』に遷移しますので、しばらくお待ちください。

②非冗長 FAN 構成において ESXi 起動完了後、下記のセンサの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『警告(黄色)』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。

- Cooling Unit 1 Fans

③ESXi 起動完了後、下記のセンサの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『?』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。

- System Chassis 1 UID

● **VMware ESXi環境でのAgentless Management Service(AMS)の注意事項**

VMware ESXi 6.7 の環境に Agentless Management Service (AMS) version 11.4.0 がインストールされている場合、VMware Update Manager による VMware システムの更新が、/tmp ディレクトリへステージングするための空きがないことを示すエラーで失敗することがあります。
/tmp ディレクトリの使用可能なディスク容量に依存する他のアプリケーションでも同様に失敗することがあります。VMware ESXi ホストの/tmp ディレクトリにある "ams-bbUsg.txt" ファイルのサイズが時間の経過とともに増加するためです。空き容量を確保するために "ams-bbUsg.txt" ファイルを定期的に削除してください。
※ファイルを削除した場合は再度ファイルが作成されます。また、VMware ESXi ホストを再起動した場合も当該ファイルは削除されますが、再起動後に再度作成されます。

/tmp ディレクトリの容量が 256MB である場合、2 か月程度で上限に達することがあります。1 か月に一度を目安に削除してください。
※ご使用の環境の/tmp ディレクトリの容量に比例してファイル削除の実施頻度を変更していただけます。
例) /tmp ディレクトリの容量が 512MB である場合、4 ヵ月程度で上限に達することがありますので、3 か月に一度を目安に削除します。

本事象は Agentless Management Service (AMS) 11.4.5 以上で修正されています。
下記のサイトをご確認いただき、AMS のアップデートを行ってください。

https://jpn.nec.com/nx7700x/
（［技術サポート情報・ダウンロード］－［ドライバー、ユーティリティ関連の物件］のページの
ユーティリティの項を参照）

◆/tmp ディレクトリの容量は以下のコマンドを実行することで確認することができます。"tmp"の行を確認してください。

```
# vdf -h
 :
Ramdisk          Size    Used Available Use% Mounted on
root              32M      2M       29M   7% --
etc               28M    172K       27M   0% --
opt               32M    564K       31M   1% --
var               48M    448K       47M   0% --
tmp              256M    276K      255M   0% --
 :
```

◆Agentless Management Service(AMS)のバージョンの確認方法には以下の 2 つの方法があります。
・対象装置の OS 上で確認する方法
(1) コンソール端末から以下のコマンドを実行します。
    # esxcli software vib get -n amsd | grep Version
(2) コマンド実行結果から「600.xx.x.x-….」、「650.xx.x.x-….」などの xx.x.x の箇所を確認します。

・iLO Web インターフェースを利用して、リモートから確認する方法
(1) リモート環境において、Web ブラウザーから iLO Web インターフェースにログインします。
(2) 左メニューの「ファームウェア & OS ソフトウェア」を選択し、「ソフトウェア」を選択します。
(3) 画面の「Product Related Software」の「amsd」のバージョンを確認します。
    ※「600.xx.x.x-…」、「650.xx.x.x-…」など、xx.x.x の箇所を確認します。

● OS起動時に検出されるネットワークポートやファーバーチャネルポートの接続エラーについて

OS 起動時に Agentless Management Service(AMS/smad)や ESMPRO/ServerAgentService のサービスが開始されたきに、これらのサービスによってネットワークポートやファイバーチャネルの接続エラー(Link Failure)のメッセージが記録される場合があります。
これらのメッセージは装置の再起動中に発生した一時的な接続状態の遷移を iLO によってイベント検知されたことによるものです。これらのメッセージは無視して問題はありません。

● OS動作中におけるiLOの再起動について

OS 動作中に iLO の再起動が発生すると、OS のシステムログにリモートコンソールが使用する仮想 USB デバイスの切断と再接続のメッセージや、iLO と通信を行っている iLO ドライバと smad プロセスの通信異常を示すメッセージが記録されます。これは仕様上の動作であり問題はありません。

■Linux OS の場合のメッセージ例

```
kernel: usb 2-3: USB disconnect
kernel: hpilo 0000:01:00.2: Open could not dequeue a packet
kernel: hub 2-3:1.0: USB hub found
smad: Failed: Writing SNMP_HELLO_BYE send=-1 errno =19
```

● 装置情報ユーティリティ実行時のUSBメッセージについて

装置情報ユーティリティ(ezclct/collectsa)を実行すると、OS のシステムログに装置内部の情報を収集するために一時的に装置内部の USB デバイスへ一時的な接続を行い、収集後切断されたことを示すメッセージが記録されます。これは仕様上の動作であり問題はありません。

■Linux OS の場合のメッセージ例

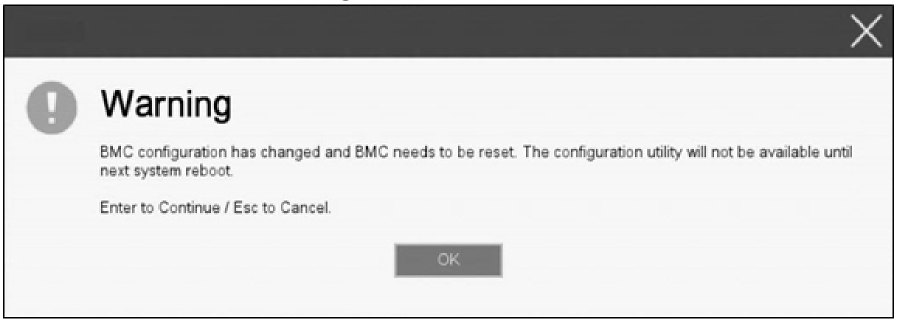
```
kernel: usb 2-3.1: New USB device found, idVendor=0424, idProduct=4030
kernel: usb 2-3.1: New USB device strings: Mfr=1, Product=2, SerialNumber=3
kernel: usb 2-3.1: Product: Ultra Fast Media Reader
```

5) 全般の機能に関わる注意事項

● **システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項**

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。
注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止、あるいは、装置に記録されている Serial Number、Product ID の消失が発生する場合があります。

(1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning(注意)ポップ アップが表示されることがあります。



英語表示の場合

日本語表示の場合

(2) 「ＯＫ」を押して進めます。

(3) 次の Warning(注意)ポップ アップが表示されます。
この Warning(注意)ポップ アップが表示されている状態にて<u>**必ず１分以上**</u> お待ちください。
その間、何も操作しないでください。

英語表示の場合

日本語表示の場合

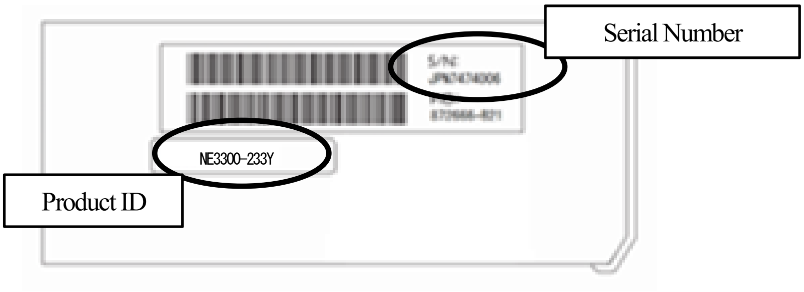
(4) １分以上経過後、装置前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
※iLO が再起動中　　　　　　　: ステータスランプが緑色で点滅（毎秒１回）
iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯

(5) 再起動の完了が確認できたら、「ＯＫ」を押してください。
(6) <ESC>キーを複数回押してシステムユーティリティの画面に戻ります。
(7) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

● Serial Number、Product IDが消失した場合の対処について

Serial Number、Product ID が消失した場合、以下の手順にて復旧することができます。

(1) 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外します。
(2) 30 秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続します。
(3) POWER スイッチで装置の電源を ON にします。
(4) サーバーが起動し、POST 画面が表示されます。
(5) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
もし、システムユーティリティが起動できない状態になっている場合は、システムメンテナンススイッチの SW6 によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。
詳細な手順は、各機種のメンテナンスガイド（1 章 保守）の「システム設定情報の初期化」の項をご参照ください。再起動後、<F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
(6) システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、Serial Number と Product ID の値を確認します。
（正しい Product ID と Serial No.の確認方法については(12)項を参照ください。）
(7) Serial Number と Product ID の値が期待する値ではない（消失している）場合は、システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options」を選択します。
(8) 「Restore Default Manufacturing Settings」を選択します。
(9) 「Yes, restore the default settings.」を選択します。
(10) 自動的に装置が再起動し、POST 画面が表示されます。
(11) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
(12) 装置のスライドタグに記載されている Serial Number と Product ID をシステムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、設定します。



(13) RBSU 設定項目をデフォルト値から変更されている場合は、その RBSU 項目の確認と再設定をします。

● UPS 接続時の注意事項

・ UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を無効「Disabled」にしてください。
(1) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port を「Disabled」に設定してください。
(2) System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status を「Disabled」に設定してください。
・ NE3381-160(電源ユニット[800W/Platinum])を冗長構成で搭載している場合、以下の設定を変更してください。
(1) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Advanced Power Options へと進み、
「Redundant Power Supply Mode」 を 「High Efficiency Mode (Auto)」に設定してください。
※ High Efficiency Mode (Odd Supply Standby)、または、High Efficiency Mode (Even Supply Standby) に設定されているお客様については、上記の変更は不要です。

● **EXPRESSBUILDERヘルプについて**

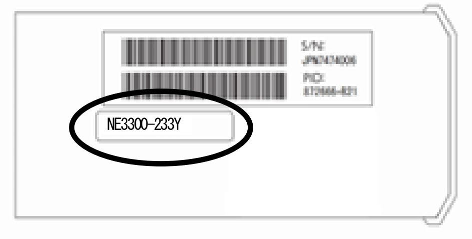
EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイドで記述が異なる場合は メンテナンスガイドの方を優先してください。

● **ディスプレイポートについて**

装置前面のディスプレイポートの動作は、サポートしていません。

● **Product IDについて**

Product ID は、スライドタグに記載されています。



CBZ-035220-001-06

2021年　2月　7版